

BSIA

User Initiated Business & IT system Association

2020年度版

CONTENTS OF ACTIVITIES

www.bsia.or.jp

ご挨拶

● BSIAの歩みと寄せる思い

2020年の年次会報を発行するにあたり、ご挨拶申し上げます。

2011年2月に「システムイニシアティブ研究会」という名の任意団体として活動を始めた頃、iPhoneはまだモデル4Sが発売される前でした。クラウドもGoogleのCEOであるエリック・シュミットが提唱から5年が経過して、AWSのデータセンターが日本に上陸するなど本格的に導入されるようになった時代でした。そして設立直後には出鼻を挫くような東日本大震災に見舞われて日本中が混乱しましたが、それにもめげずに初回の研究会を4月25日に開催しました。その研究会は今年中に100回を迎えます。ひとえにボランティアで活動を支えてくださった皆様のお陰だと感謝しております。

この活動は日本での情報システム開発の現状に憂いを持っていた発起人の當仲寛哲氏、同じく発起人の一人であり2016年に惜しまれて亡くなられた片貝孝夫氏の遺志を強く受け継いでいます。また、内製化やシステムイニシアティブという考えを普及しようと立ち上げ時に大いなる協力をしてくださった日経BP社の谷島宣之氏も忘れるわけにはいきません。

ボランティア精神から始まった組織は、2013年5月には任意団体から特定非営利活動法人システムイニシアティブ協会として認定を受けた組織になり、2015年7月にビジネスの視点から見る本質を見失わないようにと協会名をビジネスシステムイニシアティブ協会 (BSIA) に改称して現在に至っております。

関係者の皆様が活動に寄せる思いは、ベンダー企業とかユーザー企業とかの区別なく、日本のビジネスが健全に発展できるようなICTの活用を願っていることです。そのためには企業の情報システ



設立代表者・理事長 木内 里美

ムを構築する側がビジネスを理解し、ICTの知見を広め、自ら主導しなければなりません。それがビジネスシステムイニシアティブの意味するところ です。

メインフレームが主流であった時代には、コンピュータメーカーに技術依存せざるを得ませんでした。それでも構築側はイニシアティブを失ってはいませんでした。オープン化が進む中でハードウェアもシステムの要求も多様で複雑になり、徐々にベンダー依存が進んでいき、挙げ句の果てに丸投げと言われる高依存度の結果、ビジネスのためのシステムが構築できず動かないコンピュータや係争問題が頻発するようになりました。

この問題はシステムの発注側だけではなく、ビジネスがわからなくても不十分な要件で受注してしまう受注側にも問題があります。BSIAはこの両者の関係改善も含めて、ビジネス側がイニシアティブを取り戻し、ビジネスを支える情報システムを構築できるように啓発活動を続けます。

● 本年の振り返りと活動目標

2019年の活動は1月の研究会に経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課長(当時)の中野剛志氏をお迎えし、「2025年の崖」で話題になったデジタルトランスフォーメーション(DX)についてのご講演をいただき、過去最大の参加者になりました。バイモーダル、デジタル経営、アジャイル、AI、IoTなどのキーワードに大きな変化はありませんが、デジタルトランスフォーメーション(DX)が求める「変革」は大きくクローズアップされたと思います。

8月にはビジネスがサブスクリプションモデルやデータ駆動モデルなどデジタルを活用したサービス化に向かう潮流を捉えて、参加者300人規模のシンポジウムを開催しました。基調講演にはハウスステンボス株式会社CTOの富田直美氏を、特別講演には鶴巻温泉陣屋の代表取締役女将である宮崎知子氏をお招きし、圧倒的な変革とサービスクリエーションのお話を伺い、大きな反響をいただきました。

ユーザー企業の事例も「デジタル」が共通語のようになり、京都企業のHILLTOP株式会社を取り組んできた職人技の数値化・自動生産や株式会社ルネサンスのデジタルを駆使してスポーツクラブの価値

向上に取り組む姿、東京ガス株式会社のデジタルイノベーション活動、株式会社みずほフィナンシャルグループの金融のデジタル転換など時流に合ったお話を伺えました。

さて、今年はどうなことが注目されていくのでしょうか？

働き方改革の風潮を背景にRPAが爆発的に導入されたものの、改めて業務プロセスの可視化の重要性に気づいて軌道修正している話題も増えてきました。経営そのものにアジャイルな対応が求められるようになり、開発手法もローコード開発やマイクロサービスとかコンテナ技術などの導入が進んでいます。その変化に伴って内製化にも目が向けられてきています。BSIAとしても望ましい傾向だと考えています。

先の見えにくい時代、複雑化する社会、踏襲型では続かなくなってきたビジネスにはデザイン思考もアート思考も求められます。そして何よりも重要なのが時代を支えていく人材の育成です。2020年もBSIAは経営とシステムに関わるみなさんを支援するコミュニティとして本質に迫っていきたいと思います。

BSIAの 活動概要

企業、団体、業種の枠を超え、先進事例の研究、問題解決手法に関する情報交流や相互啓発の支援、主体性を発揮できる情報人材の育成に関する事業を行っています。各活動は運営委員によってレポートが作成され、Webで発信されます。

ビジネスシステムイニシアティブ実践事例の共有と議論の場

例会

各企業のITリーダーから、企業経営に寄与するIT改革の事例講演をお聴きし、その内容についてのディスカッションを行います。時には学術研究者を招いて、時代の先端技術に関する話も聞きます。ファシリテーターがリードする参加者同士の議論で理解を深めビジネスシステムイニシアティブ実現のポイントを見出していきます。一方通行のセミナーではなく、ディスカッションを通して全員が参加意識を持つ意義ある会議です。

毎月開催、1回毎に異なるテーマ

どの月からでもご参加いただけます。

本音の意見交換

ユーザ、ベンダーを問わない議論が行われ、「ここだけ」の話が飛び出します。

異業種交流

テーブルディスカッションで異業種交流が促進されます。



シンポジウム

BSIAの活動を広く告知するとともに、時代の先端のICT利活用をディスカッションするため毎年1回を目標に公開のシンポジウムを開催しています。時々の企業経営とICT利活用のテーマを掲げ、それに先進的に取り組んでおられる企業責任者から、そのチャレンジと成果、今後のプランなどを講演いただき、ディスカッションも交え、参加者全員でテーマの在り方について考えていきます。今年度は「サービタイゼーション」をテーマに、ICTを利用したサービス化の波をディスカッションしました(6・7ページ参照)。



分科会

ビジネスシステムイニシアティブにまつわる特定のテーマについて少人数のグループ議論、研究を行います。

パートナーシップ分科会報告(現在開催中 2014年4月~)

ユーザ企業とITベンダーとの真のパートナーシップはどうあるべきかという事をテーマに分科会活動を行っています。過去には、組織や人材の育成、鳥の目から見たモデリングの重要性、ベンダーマネージメントのためのコミュニケーション、ユーザ企業に必要なスキルなどをテーマにしてきました。

2019年はこれまで分科会で議論した内容を盛り込んだ、システム開発プロジェクトに従事する若者の努力と葛藤を「逆転のシナリオ」として小説風にまとめました。BSIAサイトから連載を行います。本誌5ページ下段に概要を紹介しています。

ビジネスシステムイニシアティブ人材育成分科会(近々開催 2020年4月~)

ビジネスシステムイニシアティブを実現する人材育成をテーマとする。ユーザ企業、ITベンダーでは何が現在の人材育成の課題なのか、どのような人材が今後必要なのか、今後のDX時代に向けて何をしなければならないのかを議論し、提言を行う。



例会講演概要 (2019年2月以降の講演)



2019年2月 第88回例会 野々垣 典男 様
慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科 修士課程
講演タイトル: どのような発注者が大規模ITプロジェクトを成功させるのかー備えておくべき7つの行動特性ー

ビジネスにとってITシステムは欠かせない存在であるが、ITプロジェクトの成功率は、30%から50%程度と低い。大規模ITプロジェクトを成功させるために発注者がすべきことを究明したい、という思いが57歳からの大学院挑戦を駆り立てた。ITに関する有識者20名のインタビューを中心に研究を進めた結果、ITプロジェクトを成功させるために発注者に求められる7つの行動特性が導出された。7要素各々は目新しさはないが、すべてを合格レベルで実行することは難しい。



2019年2月 第2回関西例会 近藤 寿和 様
ユニチカ株式会社 情報システム部 部長
講演タイトル: システムリフォーム (ユニチカモデル) で実現した成長する基幹システム

ユニチカでは、基幹システムの再構築にあたり「先進性」「保守性」「開発生産性」の実現というコンセプトを打ち立て、今後の主流開発モデルとされる「システムリフォーム」をベースに「ユニチカモデル」を策定し、当モデルでの再構築を無事に完了した。実践で築き上げたノウハウと勘所を詳しく説明する。



2019年3月 第89回例会 広井 邦彦 様
サイボウズ株式会社 ビジネスマーケティング本部
BPM部 シニアコンサルタント
講演タイトル: 変革を実現に導く企業ITのパラダイムシフトとIT部門の新たな役割

デジタルトランスフォーメーション(DX)と働き方改革は、目下、日本企業にとって2つの大きな経営課題となっています。しかしながら、DXにおいては「PoC疲れ」「デジタル疲れ」といった現状が散見され、働き方改革においては単なる「働き方改革」に変質してしまっている現状も多いかと思われます。DXと働き方改革は、どちらも企業文化の変革が根底にあるべきで、そのためには「風土」「制度」「テクノロジー」全体の整備が必要となります。本講演では、サイボウズの考える企業変革とそれを支えるIT部門の役割について、一つの考え方を紹介したいと考えています。



2019年4月 第90回例会 飯島 淳一 様
国立大学法人 東京工業大学 工学院 経営工学系エンジニアリングデザインコース 教授 工学博士



池上 遥香 様
国立大学法人 東京工業大学 工学院 経営工学系経営工学コース 修士課程 1年 飯島研究室所属
講演タイトル: 我が国におけるデジタルレディネスの現状分析～定量的及び定性的調査にもとづいて～

2018年末に飯島と池上で行った、我が国におけるデジタルレディネスに関する定量的および定性的調査の結果について述べる。ここで行った調査(DRA)は、アイルランドのIVI(Innovation Value Institute)が開発したものである。同研究所は、IT-CMFと呼び、ITマネジメントに関する成熟度評価及びその改善提案のフレームワークを開発している。DRAはIT-CMFにもとづいているため、初めに、IT-CMFの概要とDRAとの関係について説明する。次いで、調査結果および考察について説明したのちに、現在開発しているDX評価および改善提案のパッケージについてご紹介する。



2019年5月 第91回例会 辻 裕里 様
サンデンホールディングス株式会社
執行役員 IT本部長
講演タイトル: マイノリティを活かすサンデンの改革～地方・女性・ITの価値～

グローバルに事業展開する独立系の地方製造業が生き残るためには、規模や統制力に頼らず、現場の知恵を尊重して実施する事がとても大切です。順風満帆な時には、目立たない存在のマイノリティが、苦しい時に切替える機動力になることもあります。サンデンの創業の精神である「知を以て開き、和を以て豊かに」に基づき、女性の感性やITの価値を取り入れつつ、地域を巻き込み、皆で仲良く楽しく豊かに企業理念である「グローバル・エクセレント・カンパニーズを目指す」取り組み・活動を紹介いたします。



2019年6月 第3回関西例会 中野 剛志 様
経済産業省商務情報政策局
情報技術利用促進課長
講演タイトル: デジタルトランスフォーメーション(DX)について～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～

我が国において真のデジタルトランスフォーメーション(DX)を実現していくためには、単に最新のデジタル技術の導入を行うだけでなく、経営戦略全体のコミットのもとで既存業務・既存ITシステムをもとに変革させ、経営全体をデジタル化し、あらゆる企業が「デジタル企業」化していくことが求められる。経済産業省は、有識者による研究会を開催し、DXに向けた課題と対策について「DXレポート」としてまとめた。本講演では当該レポートについての解説を行う。



2019年6月 第92回例会 大熊 眞次郎 様
カシオ計算機株式会社 情報開発部長
講演タイトル: 成長戦略を支える、IT部門の"トランスフォーメーション"

社会、産業、生活すべてにおいて、「DX(デジタルトランスフォーメーション)」が浸透していく「大転換期」の真っ只中で、IT部門はどのようなトランスフォーメーションを自ら実践していくのか? 唯一の正解は勿論ありませんが、過去～現在～未来への道程を俯瞰しながら、ビジョンづくり、テーマづくり、人と組織づくりに関する取組みを交え、製造業の視点から、成長戦略を支えるこれからのIT組織の役割とあり方について共に考えます。



2019年7月 第93回例会 小椋 敦子 様
株式会社コーセー 執行役員 情報統括部長
講演タイトル: 事業戦略を支えるIT部門へ～コーセーのこれまでの取り組み～

DX(デジタルトランスフォーメーション)が企業存続に不可欠と言われている中、IT部門はあらゆる事業への貢献を求められています。内製化を進めつつ主導権を取り戻すことにより、どのようにして組織を変革したのか。コーセーのこれまでの取り組みをご紹介します。



2019年9月 第94回例会 河本 薫 様
滋賀大学データサイエンス学部教授 兼 データサイエンス教育研究センター副センター長(元大阪ガス(株)ビジネスアナリシスセンター所長)
講演タイトル: 企業で活躍するデータサイエンティストの能力定義

データサイエンティストの必要能力のうち、「分析力」と「プログラミング力」は体系化しやすく書籍やセミナーも多いが、「ビジネス力」は定義すら覚束ない。事業会社でデータサイエンティストの育成が進まない原因はここにある。本講演では、大阪ガスでの経験をもとに「ビジネス力」の私案を示し、加えて、滋賀大で試行している育成方法を紹介します。



2019年10月 第95回例会 大藪 範子 様
株式会社ワコール WEB販売事業部 ウェブストア営業部 ウェブストア営業企画課 課長
講演タイトル: ワコールウェブストアが考える、令和時代のマーケティング「顧客をマーケティングする」から「顧客からマーケティングされる」時代に

平成時代、インターネットやスマートフォンの出現により、人々の生活のものが大きく変化(進化)してきた。それによりマーケティングも変化対応が求められているが、それはどういうことなのか、主体者はどう変化したが、価値の創出はどうかなどを、マーケティングの本質をもとにひも解いてみる。そして令和時代のマーケティングのあり方を考えてみる。その他、昨今のデジタルシフトの取り組みが盛んであるが、それがもたらす価値や顧客体験がもたらす価値などを共有しながら、マーケティングの視点で考えてみる。企業で活躍するデータサイエンティストの能力定義



2019年11月 第96回例会 谷口 友彦 様
SGホールディングス株式会社 執行役員
IT戦略担当
講演タイトル: SGホールディングスグループにおけるIT戦略の歩みと今後の展望

SGホールディングスグループでは2005年からレガシーシステムの刷新に着手。オープン系システムの共通プラットフォーム化の推進によりITコストを大幅に削減。そして、現在はAIやロボティクスなど新しいテクノロジーを活用した業務の抜本的な効率化・省力化にチャレンジしております。本公演では、このような経営課題の解決に向けたSGホールディングスグループのIT戦略の歩みと今後の展望をご紹介します。



2019年12月 第97回例会 竹内 真様
株式会社ビズリーチ 取締役 CPO兼CTO
講演タイトル: 株式会社ビズリーチのAI室の活動と実例のご紹介

株式会社ビズリーチ内の事業部横断組織かつCTO直轄組織としてのAI室。AI室の組成から主要メンバーと活動範囲や内容の紹介、各事業部においてどのような結果を生み出しているのか、その内部のいくつかをお話します。



2020年1月 第98回例会 須山 正隆 様
ウシオ電機株式会社 経営統括本部 IT戦略部門 部長
講演タイトル: ウシオグループにおける「攻め」と「守り」のIT戦略～デジタルイノベーションの創出とIT部門の変革に向けて～

本講演では、ウシオグループにおける「攻め」と「守り」のIT戦略やIT部門の組織改革の歩み、今後の展望についてご紹介します。ビジネス環境の変化に対応するためにはスピードが求められます。さらに、勝ち残っていくためのサービレベルも求められます。そしてコストも重要な要素の一つです。コスト構造の見直しや業務効率化を推進する「守り」と、企業の競争力強化や新たな企業価値を創出する「攻め」、この両面を同時にバランスよく実現することがIT部門としての経営への貢献であると考えています。

例会 講演者、参加者からのコメント

● 2019年11月講演者 谷口 友彦 氏 (SGホールディングス株式会社 執行役員IT戦略担当)



2019年11月に「SGホールディングスグループにおけるIT戦略の歩みと今後の展望」というタイトルで、佐川急便のダウンサイジングの取り組みや、AIをはじめとしたテクノロジーを活用した取り組みなど、SGホールディングスグループのIT戦略についてご紹介させて頂きました。

今回例会に初めて参加させて頂きましたが、講演後のグループディスカッションでは活発に意見が交わされ、質疑応答では非常に本質的な質問を頂いたことに、大いに刺激を受けました。また、参加者の皆様と意見を交わす中で、我々のこれまでの取り組みや今後進むべき方向について自信を深めることができました。例会を通じて、新たに様々な業種・業態の方々とも関係を持つことができたことも大きな収穫です。今後もBSIAの設立趣旨である「ユーザー自身が、自社の事業の仕組みを理解し、ビジネスを成功に導くために、主体的にITを利活用する姿」を追求してまいります。

● 例会参加者 小笹 淳二 氏 (キッコーマン株式会社 システム戦略部 部長)



数年前から参加させていただいています。毎回、タイムリーかつ有意義な講演を”ここだけの話”も含めてお聞きできます。が、それだけでなく、BSIA例会の一番の魅力は、講演後、テーブルメンバと講演者への質問を考える討議時間と、テーブルからの質問に対して更に深く本音を聞き出そうとされる司会者の田口さんの絶妙な”ツッコミ”で見えてくる講演者の方の本音です。

最近では、学生参加者もあり、テーブル討議では新鮮な視点を与えてくれます。通常のセミナーでは、参加者と名刺交換をすることはあっても意見を交わす機会は少ないので、BSIA例会のテーブル討議は新しい方と知り合うのにもいい機会となります。皆さんも是非！

● BSIA パートナシップ分科会による「逆転のシナリオ」 連載始まる！！ ITプロジェクトの舞台裏を見せます！！



日経コンピューター(2018年3月)によると、ITプロジェクトの成功率は50%強とあります。プロジェクト失敗の背景には、バンダー任せのプロジェクト、バンダーとユーザー間のコミュニケーションの不備、プロジェクトマネジメント・プロセスの欠如・等等があります。「逆転のシナリオの舞台である“呉服の桐生”と“日比谷ソフトウェア”のプロジェクトも、多くの日本のITプロジェクトが抱えるプロジェクトの落とし穴にはまり、プロジェクトの破綻という奈落に突き落とされました。呉服の桐生のプロジェクトマネージャーである昭和の男、佐々木修一も、バンダーの日比谷ソフトの若きプロジェクトリー

ダー前田理沙も、それぞれの立場で精いっぱいプロジェクトと格闘しました。でも、頑張りだけではプロジェクトという魔物には勝てませんでした。なにが足りなかったのでしょうか？ どうすればよかったのでしょうか？

そして、逆転のシナリオが始まります。

プロジェクトの舞台裏には、プロジェクトに関わる多くの人々の仕事の、人生のドラマがあります。そんな人々の織り成すプロジェクト模様を通して、プロジェクト成功への秘訣を読者の皆様と共有したい、という思いでメンバー全員一年半にわたり活動をしてきました。メンバー全員の知見、経験、思いが詰まった“逆転のシナリオ”をまずは楽しんでいただき、そしてこの物語から何かを学んでくださればとても嬉しいです。

記：BSIA パートナシップ分科会「逆転のシナリオ」プロジェクト代表 永谷裕子

逆転のシナリオ <https://bsia.or.jp/corporate/novel/>

デジタル時代の新たな潮流 サービタイゼーション

～デジタルを駆使したサービスが企業に変革の力を与える!～

主催:ビジネスシステムイニシアティブ協会

日時:2019年8月28日(水) 場所:秋葉原UDX

● コンセプト

TOYOTA やコニカミノルタ、小松製作所など日本を代表する製造業が次々とサービスビジネスに乗り出しています。デジタルトランスフォーメーションが進み、デジタルを基軸としたビジネス改革が進行する中で、これまでの製品ありきの姿から顧客ニーズに沿ったビジネススキームを模索する動きが広がっているのです。この製造業のサービス化の潮流は、従来のサービス業にも大きな変革を求めるものです。

一方で AI、IoT、FinTech などの先進テクノロジーがデジタルビジ

ネスに大きな可能性を与え、ビジネス環境改革と先進テクノロジーの融合はまさにビジネスに破壊的価値創造（ディスラプティブ）をひき起こしています。

本シンポジウムでは、野心的にビジネス変革に取り組んでいる企業様の事例と、それを支える最新技術の動向を皆さんと共有し、創造的破壊の時代のビジネス人材発掘・育成、組織についても議論したいと考えています。

● 講演風景



セッションスケジュール

| トラックA | トラックB |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">基調講演</p> <p>「技術の進歩は人々の幸せのために！」 株式会社 hapi-robo st 代表取締役社長 ハウステンボス株式会社 取締役CTO 富田 直美 氏 </p> | |
| <p>「IT部門が攻めの姿勢で 経営リスクを回避！」 ～システムリフォームによるレガシーからの脱却～ 株式会社村田製作所 情報技術企画部 シニアスペシャリスト 武蔵 史明 氏  (株式会社ソフトロード)</p> | <p>「モノづくり工場の改善・改革 (TPS) & イノベーションのテコであるITとの シナジー効果による誰でもすぐに 出来る企業競争力向上」 協和工業株式会社 ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所 代表取締役 代表取締役 鬼頭 佑治 氏 當仲 寛哲 氏  </p> |
| <p>「クラウドで知っておきたい基礎知識 『クラスタリング』『オートスケール』 『マイクロサービス』の違い」 株式会社ジャスミンソフト 代表取締役 費 良則 氏 </p> | <p>「Neusoftから見る中国の IT市場の過去、現在と未来」 ～中国へ進出した日本企業のIT戦略と DX時代で直面する課題および解決策～ Neusoft Cloud Technology Co., Ltd. Marketing & Consulting Dept. Senior Manager 陳 文 氏   Senior Adviser (上席顧問) 田口 佳孝 氏</p> |
| <p style="text-align: center;">特別講演</p> <p>「IT活用による旅館改革とその展望」 株式会社陣屋 代表取締役 女将 宮崎 知子 氏 </p> | |
| <p>参加者全員によるテーブルディスカッション</p> | |
| <p>「職人技を数値化した HILLTOPの製造サービス」 HILLTOP株式会社 経営戦略部長 山本 勇輝 氏 </p> | <p>「総合スポーツクラブ事業における IT活用の取り組み」 ～「事」のデジタル化事例～ 株式会社ルネサンス IT戦略部長 鈴木 重美 氏 </p> |
| <p>「武器を持った情シスが会社を変える」 ～スピード感あるイノベーションを可能にする ために私たちができる事～ 京王電鉄株式会社 経営統括本部 デジタル戦略推進部長 感性AI株式会社 代表取締役社長 CEO 京王ITソリューションズ 取締役 虻川 勝彦 氏  サイボウズ株式会社 営業戦略部 副部长 木地谷 健介 氏</p> | <p>「デジタル化企業が追い求める 製造業DX理想型」 Mipox 株式会社 代表取締役社長 渡邊 淳 氏 (株式会社セールスフォース・ドットコム) </p> |
| <p>「東京ガスのデジタルイノベーション」 東京ガス株式会社 執行役員 門 正之 氏 </p> | <p>「カスタマーオリエンテッドを実現する デジタルトランスフォーメーションの 取り組み」 みずほフィナンシャル・グループ 株式会社Blue Lab CTO 大久保 光伸 氏 </p> |

例会講演リスト (2011年4月から2019年1月までを掲載。 2019年2月以降は4ページを参照ください)

| | | | |
|----|---------|--|--|
| 1 | 2011.4 | 丸投げ&ログイン構造からの脱却 | 熊野 憲辰 氏 (ゼリア新薬工業株式会社) |
| 2 | 2011.5 | 病院におけるユーザー主導のシステム導入・活性術 | 杉浦 和史 氏 (杉浦技術士事務所) |
| 3 | 2011.6 | 情報経費を半分以上に! ~システム開発のパラダイムシフト | 内山 東平氏 (情報科学研究所) |
| 4 | 2011.7 | 目利きになろう! ~ 韓国ソフト事情紹介とディスカッション | 木内 里美 氏 (大成ロテック株式会社) |
| 5 | 2011.8 | 情報システム内部監査から見た『ユーザー主体のシステム開発』 | 田中 幸一 氏 (東京海上日動火災保険株式会社) |
| 6 | 2011.9 | 丸投げからの脱却 ~IT部門内教育とベンダーとの関係改善について | 鈴木 康宏 氏 (株式会社日本公文教育研究会) |
| 7 | 2011.10 | システム開発におけるベンダーマネジメント | 油野 達也 氏 (インフォテリア株式会社) / 堀野 史郎 氏 (アカマイテクノロジーズ) |
| 8 | 2011.11 | システム開発契約におけるシステムイニシアティブの留意点 | 野々垣 典男 氏 (株式会社JTB情報システム) |
| 9 | 2011.12 | ベテラン編集者が語る! システムイニシアティブこの1年 | 田口 潤 氏 (インプレスビジネスメディア社) / 谷島 宣之氏 (日経 BP 社) |
| 10 | 2012.1 | 変化する時代、問われる企業 IT 化のあり方 | 桑原 里恵 氏 (札幌スパークル) |
| 11 | 2012.2 | ベンダーからグリップ (責任と執行) をとりもどせ! | 長谷川 秀樹 氏 (株式会社東急ハンズ CIO) |
| 12 | 2012.3 | 偽者は要らない、本物の SE だけが企業を救う | 青木 明雄 氏 (情報システム基盤コンサルタント) |
| 13 | 2012.4 | この閉塞する日本を改革できるのは、情報システムの力しかない | 横塚 裕志 氏 (東京海上日動システムズ社長) |
| 14 | 2012.5 | 企業内アントレプレナーと業務キュレーションの重要性 | 田辺 要平氏 / 畑石 千裕氏 (大成建設株式会社) |
| 15 | 2012.6 | ジーンズハーンにマネジメントを学ぶ | 浜本 知一 氏 (株式会社富士テクノソリューションズ) |
| 16 | 2012.7 | IT 経営によるユーザー主体性の真骨頂 | 齋藤 正勝 氏 (カブドットコム証券株式会社 社長) |
| 17 | 2012.8 | 基礎自治体はさながら情報処理工場、そこで働く職員が情報システムの主導権を握らなければ、住民のための仕事ができるはずがない | 吉田 稔 氏 (西宮市CIO補佐官兼西宮市情報センター長) |
| 18 | 2012.9 | 流通小売企業の IT 活用におけるイノベーションへの挑戦 | 西川 晋二 氏 (株式会社トライアルカンパニー CIO) |
| 19 | 2012.10 | 日本発の E-Commerce 企業におけるビッグデータ戦略と未来への課題 | 森 正弥 氏 (楽天技術研究所長) |
| 20 | 2012.11 | グローバル化を勝ち抜く、企業 IT 力強化の処方箋 ~梶子 (IT 基盤) づくり、人づくり、仕組みづくり~ | 矢澤 篤志氏 (カシオ計算機株式会社 執行役員) |
| 21 | 2012.12 | 経営と IT の融合 ~強い企業を支える IT は自ら考える~ | 小佐野 豪績氏 (ヤマトホールディングス株式会社執行役員) |
| 22 | 2013.1 | ダイバーシティが日本を元気にする~マイノリティは見た、日本の実態 | 劉 忱 (リュウ シン) 氏 (株式会社ソフトロード社長) / Atsushi Taniguchi 氏 (SAP) / 浦田 有佳里 氏 (住宅金融系 IT ベンダー) |
| 23 | 2013.2 | 最適な IT 投資の実現に向けて | 河崎 幸徳 氏 (株式会社ふくおかフィナンシャルグループ 経営企画部 部長) |
| 24 | 2013.3 | 情報システム部門の組織 ユーザー企業の情報子会社のあり方について | 小田 滋 氏 (DIC 株式会社 情報システム本部長) |
| 25 | 2013.4 | 農業専門紙の意地として ~「新市況システム 2010」 開発物語 | 永井 孝介 氏 (株式会社日本農業新聞 編集局長) |
| 26 | 2013.5 | マチのほっとステーションを支える情報システム | 佐藤 達 氏 (株式会社ローソン 執行役員 CIO 兼 IT ステーションディレクター) |
| 27 | 2013.6 | 情報システム部門における人材育成の事例紹介 | 沼 英明 氏 (ノバルティス ファーマ株式会社 企画管理本部 執行役員 情報システム事業部長) |
| 28 | 2013.7 | 札幌市における利用者主導での基幹系情報システム再構築の取り組み | 長沼 秀直 氏 (札幌市総務局情報化推進部 IT 推進課システム開発担当課長) ほか |
| 29 | 2013.8 | 自社開発を主体とした積水化学の IT の取り組みについて | 寺嶋 一郎 氏 (積水化学工業株式会社 経営管理部 情報システムグループ長) |
| 30 | 2013.9 | 情報システム部門のマネジメントを考える | 坪井 祐司 氏 (株式会社 LIXIL 上席執行役員プロダクツカンパニー CFO) |
| 31 | 2013.10 | Honda における IT 部門の役割と責任 | 有吉 和幸 氏 (本田技研工業株式会社 IT 本部長代行 参事) |
| 32 | 2013.11 | 共通ポイントカード利用者のデータ分析結果を活用した収益拡大への取り組み事例 | 宮田 洋 氏 (遠州鉄道株式会社グループ経営推進本部経営企画部長) |
| 33 | 2013.12 | アーキテクチャ主導の企業情報システムへ | 中山 嘉之 氏 (株式会社アイ・ティ・イノベーション シニアコンサルタント) |
| 34 | 2014.1 | 2014 年のシステムイニシアティブ ~新しいパートナーシップの構築に向けて~ | 超高速開発コミュニティ / 石毛 信次 氏 (ブックオフコーポレーション株式会社 IT 統括部 運用グループ マネージャー) / 今林 豊 氏 (株式会社市進ホールディングス 情報管理部 副部長) |
| 35 | 2014.2 | 分析力を武器とする IT 組織になる~大阪ガスの挑戦~ | 河本 薫 氏 (大阪ガス株式会社情報通信部ビジネスアナリシスセンター所長) |
| 36 | 2014.3 | 事例から学ぶ、大手企業の対等合併に伴う IT 統合 | 佐々木 典夫 氏 (IT コンサルタント) |
| 37 | 2014.4 | 旅館における IT の活用事例 | 宮崎 富夫 氏 (鶴巻温泉 元湯陣屋 代表取締役社長) |
| 38 | 2014.5 | リコーのグローバル IT ガバナンスの取り組み | 石野 普之 氏 (株式会社リコー 理事 経営革新本部副本部長) |
| 39 | 2014.6 | 良好な関係に良好なシステムが宿る~超高速開発手法を利用したユーザー主体の基幹システム開発事例~ | 今林 豊 氏 (株式会社市進ホールディングス 情報管理部 IT 戦略推進室 副部長) / 齊藤 明 氏 (株式会社市進ホールディングス 情報管理部 IT 戦略推進室 課長補佐) / 福嶋 進太郎 氏 (株式会社アイ・ティ・フロンティアシステムグループ プラットフォームアセンブルユニット) |
| 40 | 2014.7 | 日本型ハイブリッド経営の一例 情報技術と経営の融合 | 安崎 暁 氏 (株式会社小松製作所 元社長・会長) |
| 41 | 2014.9 | 30 年振りの業務系基幹システム刷新 | 石毛 幾雄 氏 (山崎製パン株式会社 計算センター室長) |
| 42 | 2014.10 | 23 町村中 18 町村が参加。国内最大規模の自治体基幹系業務システム共同化の経緯 | 市瀬 英夫 氏 (埼玉県町村会 参事 情報システム共同化推進室長) |
| 43 | 2014.11 | 顧客との信頼確立 ~明豊の CM サービスとそれを支える独自のシステムについて~ | 坂田 明 氏 (明豊ファシリティアワークス株式会社 代表取締役社長) |
| 44 | 2014.12 | すしクラウド ~クラウドファーストからクラウドネイティブへ進化~ | 田中 寛 氏 (株式会社あきんどスシロー 情報システム部長) |
| 45 | 2015.1 | システムイニシアティブの核心に迫る! ~ SIA 分科会からの報告~ | パートナーシップ分科会: 佐々木 典夫 氏 (座長・IT コンサルタント) +1-8 名 企業の成長を支える PMO 分科会: 永谷 裕子 氏 (座長・㈱アスカプランニング) IT 部門の人材育成検討分科会: 鈴木 康宏 氏 (座長・㈱日本公文教育研究会) |
| 46 | 2015.2 | 次世代の CIO に求められるもの | 塚本 裕昭 氏 (マイラン製薬株式会社 インフォメーション・テクノロジー部 部長) |

| | | | |
|----|---------|--|--|
| 47 | 2015.3 | 情報システム部の構造改革 | 加藤 恭滋 氏 (大和ハウス工業株式会社 執行役員・情報システム部長) |
| 48 | 2015.4 | ビジネス拡大の足かせではなく変革の推進力になるための挑戦 | 久本 英司 氏 (株式会社星野リゾート グループ情報システム ユニットディレクター) |
| 49 | 2015.5 | 馬鹿な営業は要らない! | 恩田 明 氏 (全日本食品株式会社 上席執行役員 情報システム本部 本部長) |
| 50 | 2015.6 | IT によるビジネス貢献 | 引地 久之 氏 (日本たばこ産業株式会社 IT 部長) |
| 51 | 2015.7 | 「特許庁業務・システム最適化計画」への取り組み | 中村 敬子 氏 (特許庁 総務部情報技術企画室長) |
| 52 | 2015.10 | ローマ帝国に学ぶ IT の役割 | 橘高 政秀 氏 (住友ゴム工業株式会社 IT 企画部長) |
| 53 | 2015.11 | IT 部門を取り巻く環境変化とその備え-広がる役割、高まる期待への対応とは! | 金 修 氏 (一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 専務理事) |
| 54 | 2015.12 | 「システムイニシアティブを取り戻せ」～システムイニシアティブを失った IT 部門がイニシアティブを取り戻す方法～ | 立花 秀樹 氏 (リゾートトラスト株式会社 情報システム部 業務改善課長) |
| 55 | 2016.1 | 模倣の経営学～偉大なる会社はマネから生まれる～ | 井上 達彦 氏 (早稲田大学商学大学院教授・インキュベーション推進室長) |
| 56 | 2016.2 | BSIA パートナーシップ分科会からの報告 | パートナーシップ分科会:佐々木典夫(座長・IT コンサルタント) 高橋俊夫氏、宇羅勇治氏、米田正明氏、山本康氏、堀越雅朗氏、安藤和美氏、富谷喜一氏 |
| 57 | 2016.3 | ミサワホームの IT 再構築「クラウドファースト」と「パイモダル」へのチャレンジ | 宮本 真一氏 (ミサワホーム株式会社 企画管理本部 情報システム部 部長) |
| 58 | 2016.4 | 価値創造の仕組み ～人と人との繋がりが新しい価値を創造する～ | 竹林 一氏 (オムロン株式会社 京阪奈イノベーションセンタ オープンイノベーション担当) |
| 59 | 2016.5 | LIXIL のグローバル IT 戦略 | 小和瀬 浩之氏 (株式会社 LIXIL 上席執行役員 CIO 兼 情報システム本部 本部長) |
| 60 | 2016.6 | Global One Takeda に向けたビジネスの変革を支える IS/IT の変革とデジタルへの取り組み | 沼田 智氏 (武田薬品工業株式会社 グローバルインフォメーションテクノロジー リージョン CIO 製薬&サブライシステムズヘッド) |
| 61 | 2016.7 | KUMON のグローバルシステム「KIDS」の高速開発と短期導入 ～国内の改革を海外にどう活かしたか～ | 鈴木 康宏 氏 (株式会社公文教育研究会 グローバル ICT 戦略室 室長) |
| 62 | 2016.8 | FinTech 銀行が受けるインパクト | 佐藤 宏昭 氏 (株式会社八十二銀行 執行役員システム部長) |
| 63 | 2016.9 | 札幌市基幹系情報システム再構築の経験から学ぶ「発注者主導の心得」 | 田中 寛純 氏 (Josys-led 代表) |
| 64 | 2016.12 | 東京ガスの IT の現状と電力・ガス自由化に向けて | 沢田 和昌 氏 (東京ガス株式会社 IT 活用推進部長) |
| 65 | 2017.1 | 迫り来るシンギュラリティと人類の未来 | 松田 卓也 氏 (神戸大学 名誉教授) |
| 66 | 2017.2 | こうすれば良好なパートナーシップを構築できる! | BSIA パートナーシップ分科会 |
| 67 | 2017.3 | データ経営によるビジネス変革への挑戦 | 土屋 哲雄 氏 (株式会社ワークマン 常務取締役情報システム / ロジスティック担当) |
| 68 | 2017.4 | ベンチャー企業と大企業の文化の間で揺れる私が行き着いた「パイモダル戦」 | 小野 和俊 氏 (セゾン情報システムズ常務取締役 CTO/ アプレッソ代表取締役社長) |
| 69 | 2017.6 | デジタルトランスフォーメーション時代のデータ活用の在り方について考える | 高橋 範光 氏 (株式会社チェンジ執行役員 Analytics & IoT 担当) |
| 70 | 2017.7 | IoT ビジネス時代における IT 部門の役割 | 田井 昭 氏 (コニカミノルタ株式会社 執行役 IT 企画部長) |
| 71 | 2017.8 | 次なる 100 年を拓く、ヤンマーグローバル IT 戦略 A SUSTAINABLE FUTURE ～テクノロジーで、新しい豊かさへ | 矢島 孝應 氏 (ヤンマー株式会社 ビジネスシステム部 執行役員 部長) |
| 72 | 2017.9 | 日産自動車における IS/IT 中期戦略の歩みと IS/IT トランスフォーメーションの取り組み | 木附 敏 氏 (日産自動車株式会社 グローバル IT 本部 本部長) |
| 73 | 2017.10 | 戦略策定と戦略実現の手ほどき | 中田 康雄 氏 (株式会社中田康雄事務所 代表取締役 (元カルビー株式会社 代表取締役社長兼 CEO、CIO)) |
| 74 | 2017.11 | 経営における CIO の責務とビジネスアナリシスー 日立の初代 CIO が語る経営とビジネスアナリシス | 上田 靖之 氏 (株式会社日立製作所 初代 情報システム管理本部長) |
| 75 | 2017.12 | デジタルトランスフォーメーションに求められるシステム開発手法アジャイルとスラムとは～価値、原則、プラクティス～ | 安井 力 氏 (アジャイルコーチ、コンサルタント) |
| 76 | 2018.1 | サッポログループにおける IT インフラ統合 | 駒澤 正樹氏 (サッポログループマネジメント株式会社 グループ IT 統括部 シニア イノベーション エキスパート) |
| 77 | 2018.2 | なぜベンダーマネジメントは上手くないのか? ～ プロジェクト成功への処方箋～ | BSIA パートナーシップ分科会 |
| 78 | 2018.3 | ビジネスシステムイニシアティブを手中に ～ DeNA IT 戦略部の取り組み～ | 成田 敏博 氏 (株式会社ディー・エヌ・エー 経営企画本部 IT 戦略部 部長) |
| 79 | 2018.4 | 業務システムのグローバル最適化への取組みと事業を横断したデータ管理基盤の構築 | 田中 秀樹 氏 (セイコーエプソン株式会社 IT 推進本部 情報化推進部 部長) |
| 80 | 2018.5 | 沖縄流「Eco まるマネジメント」による業務プロセス改善活動と RPA 導入までの歩み | 松田 貴久美 氏 (オリックス・ビジネスセンター沖縄株式会社 企画開発部 IT 企画チーム) |
| 81 | 2018.6 | データ駆動型経営への招待 ～ Data is New Oil ～ | 油野 達也 氏 (株式会社データビークル 代表取締役 CEO) |
| 82 | 2018.7 | デジタル・トランスフォーメーション | 神岡 太郎 氏 (一橋大学 商学研究科 工学博士) |
| 83 | 2018.9 | 日本の臨床検査サービスを下支えしながら、新ステージにビジネスを変革させてゆく為の IT 改革 | 金子 昌司 氏 (みらかホールディングス株式会社 IT 本部長) |
| 84 | 2018.10 | システムリフォーム (ユニチカモデル) で実現した成長する基幹システム | 近藤 寿和 氏 (ユニチカ株式会社 情報システム部 部長) |
| 85 | 2018.11 | あなたの知らない情報セキュリティの世界 | 石田 淳一 氏 (株式会社アールジェイ 代表取締役) |
| 86 | 2018.12 | データで変える物流ビジネス ～ 視える化で解決する物流の効率化～ | 加藤 由貢 氏 (トランコム株式会社 物流サービスグループ 営業本部 ゼネラルマネージャー兼 Digital Transformation 推進室室長) |
| 87 | 2019.1 | デジタルトランスフォーメーション (DX) について ～ IT システム「2025 年の崖」の克服と DX の本格的な展開～ | 中野 剛志 氏 (経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課長) |

関西例会

| | | | |
|---|---------|--|-----------------------------------|
| 1 | 2018.10 | 次なる 100 年を拓く、ヤンマーグローバル IT 戦略 A SUSTAINABLE FUTURE ～ テクノロジーで、新しい豊かさへ～ | 矢島 孝應 氏 (ヤンマー株式会社 取締役 ビジネスシステム部長) |
|---|---------|--|-----------------------------------|

デジタルトランスフォーメーションに関するアンケート調査

BSIAでは、2019年2月から3月にかけて「デジタルトランスフォーメーションに関するアンケート調査」を会員企業向けに実施しました。経済産業省が2018年9月に発表した「DXレポート」では、このまま老朽化システムを放置すると2025年には大きな損失を招くことを「2025年の崖」と表現して、話題になりました。

今回のアンケート調査は、WEBアンケート形式で実施。回答件数は少なかつたものの(有効回答件数94件)下記のような興味深い結果を得ることができました。特にIT部門とは別のDX推進部署を設置している企業が多く、DX推進のためにはIT部門とは別のDX推進部署を設置する方が良いのではないかと推定される結果となっています。また経営トップとIT部門との関係の有無がDX推進に重要なキーとなっていることも推定されます。

1.IT部門の役割

デジタルビジネスの開発に対してIT部門が主体的に対応している割合は17%であり、DX推進部署と協同行なっている割合が37%、部分的に参加している割合が28%であった。全体として、デジタルビジネスについては実に8割の企業がIT部門以外の部署が主体となってプロジェクトを行っており、DXの取り組みが従来のIT部門からDX推進部署などに移行していることがわかった。

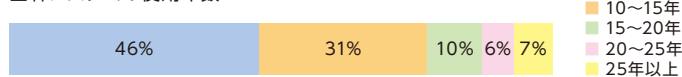
Q20.デジタルビジネスの開発に対し、IT部門の役割はどうか

| | IT部門が主体的にPJをリード | IT部門とビジネス部門が一緒に推進 | IT利用技術をオペレータ的に側面サポート | データ連携やセキュリティなど機能のみ関与 | ビジネス側中心で、IT部門は関わらない |
|------------|-----------------|-------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 全体(業種別) | 17% | 37% | 21% | 7% | 17% |
| 製造業 | 19% | 48% | 19% | 0% | 15% |
| 非製造業 | 19% | 31% | 31% | 8% | 11% |
| 情報サービス業 | 11% | 41% | 11% | 15% | 22% |
| (規模別) | | | | | |
| 300人未満 | 14% | 26% | 19% | 15% | 26% |
| 300~1,000人 | 5% | 40% | 25% | 5% | 25% |
| 1,000人以上 | 23% | 43% | 21% | 4% | 9% |

2.レガシーシステムの取り扱い

「DXレポート」では大半の企業が20年以上経過している古い基幹システムを抱えている想定になっているが、BSIA加盟企業では20年以上の基幹システムを保有している企業は13%に過ぎず、10年未満と回答した企業が46%となっている。BSIAの過去の例会で古い基幹システムの刷新について啓蒙していることもあり、BSIA加盟企業ではレガシーシステムの切り替えが進んでいるといえるのではないだろうか。

基幹システムの使用年数



Q17.デジタルトランスフォーメーションが叫ばれる中、貴社での取り組みに近いものは以下のうちどれですか

| | 経営トップからIT活用の指示が明確に出ている | ビジネス担当にIT活用の意識が高い役員がいる | CIO、CDOがビジネスへのIT活用の起案 | IT活用が必要な時にビジネス・IT部門への指示が出ている | 経営にビジネスへのIT活用の意識は感じられない |
|------------|------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------------|-------------------------|
| 全体(業種別) | 35% | 15% | 7% | 32% | 11% |
| 製造業 | 41% | 22% | 4% | 30% | 4% |
| 非製造業 | 31% | 11% | 11% | 31% | 14% |
| 情報サービス業 | 37% | 11% | 4% | 33% | 15% |
| (規模別) | | | | | |
| 300人未満 | 37% | 11% | 0% | 41% | 11% |
| 300~1,000人 | 5% | 20% | 15% | 45% | 15% |
| 1,000人以上 | 47% | 15% | 9% | 21% | 9% |

3.経営とITとの関係

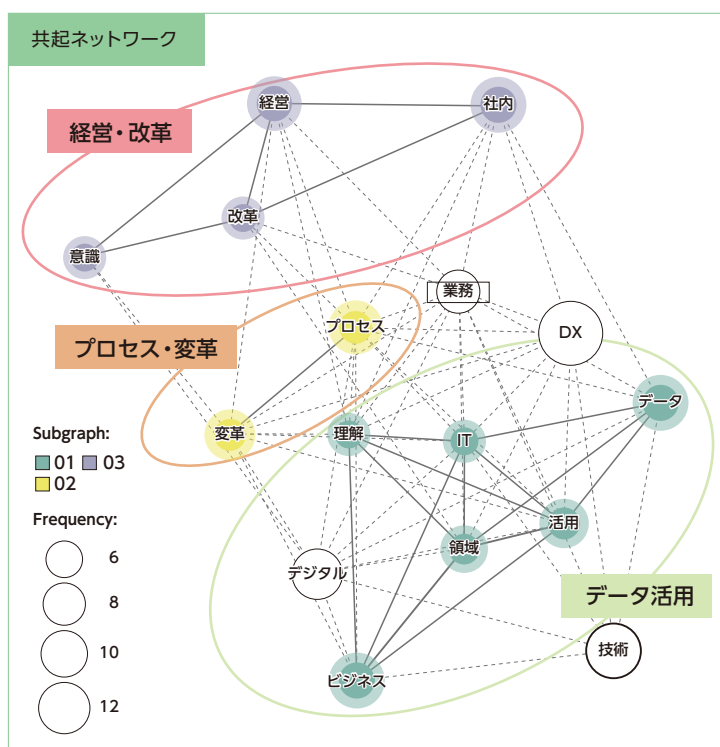
DXに関して経営トップから明確に指示が出ている企業と、従来どおり改善レベルの指示にとどまっている企業に二極分解していることがわかった。なお、300人未満の企業でもトップから指示が出ている割合が多いが、300人~1,000人規模の企業ではその割合が少なく、現状踏襲型の経営を行なっていることがわかった。

更に、「今後のデジタルトランスフォーメーション時代を迎えるにあたり、貴社が取り組むべきことはどんなことでしょうか?」という質問の回答をテキストマイニングツール(KH Coder(樋口耕一氏作成のフリーウェア))で分析することも行った。語の出現率として「経営・意識・改革」、「データ活用」、「プロセス変革」が高く出現しており、会員の皆様の意識の高さと、デジタルトランスフォーメーションの本質としてのキーワードが抽出されたものと考えております。

BSIAでは、今後も引き続き、このようなアンケートを実施し、会員の皆様との情報共有を図っていきたくと考えております。

BSIA アンケート検討委員会 委員長(BSIA 理事)
鈴木 康宏/株式会社公文教育研究会 ICT事業開発室 室長

<https://bsia.or.jp/corporate/survey2019/>



● 法人正会員

| | | |
|---|-------------------|-----------------------------|
| 株式会社アイ・アイ・エム | サイボウズ株式会社 | 株式会社日立製作所 |
| IIMヒューマン・ソリューション株式会社 | 株式会社ジャスミンソフト | ヒロ・ビジネス株式会社 |
| 青山学院大学 社会情報学部附置 リエゾンラボ ADPISA (通称ADPISA) | 情報技術開発株式会社 | ピースミール・テクノロジー株式会社 |
| 株式会社ウイング | 株式会社ソフトロード | 一般社団法人BPMコンソーシアム |
| 株式会社オラン | 株式会社ディー・ディー・エス | ブレインズコンサルティング株式会社 |
| 株式会社オープンストリーム | 株式会社データ総研 | 有限会社ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所 |
| クオリティソフト株式会社 | 日本インサイトテクノロジー株式会社 | ローコード開発コミュニティ (50音順・21社) |

● 個人正会員

| | |
|-------|------------|
| 内山 東平 | 坂本 克也 |
| 安部 真行 | 岸川 剛 |
| 庄司 敏浩 | 崎本 哲生 |
| 新家 敦 | 平山 愉二 |
| 伊藤 孝史 | 陳 文 |
| | (50音順・10名) |

● 理事

| | |
|-------|--|
| 理 事 長 | 木内 里美 (株式会社オラン) |
| 副理事長 | 寺嶋 一郎 (TERRANET) |
| | 當仲 寛哲 (有限会社ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所) |
| 理 事 | 有吉 和幸 (オフィス有吉) |
| | 内山 東平 (情報科学研究所) |
| | 小河原 茂 (鴻池運輸株式会社) |
| | 河崎 幸徳 (株式会社ふくおかフィナンシャルグループ) |
| | 鈴木 康宏 (株式会社公文教育研究会) |
| | 田口 潤 (株式会社インプレス) |
| | 西川 晋二 (株式会社トライアルホーディングス) |
| | 沼 英明 (F&Pコンサルティング) |
| 監 事 | 林 浩一 (ピースミール・テクノロジー株式会社) |
| | 堀越 雅朗 (株式会社データ総研) |
| 監 事 | 広川 敬祐 (HBSHiroBusinessSolutions広川公認会計士事務所) |

● 準会員

1,029社 1,627名
(2020年2月末現在)

● 入会ご案内

| 会員種別 | | 年会費 |
|-------|--|-----------|
| 個人正会員 | <ul style="list-style-type: none"> この法人の目的に賛同する個人。 総会での議決権を持ちます。 例会の参加が無料です。 例会ビデオを無料でご提供します。 その他、正会員向けの特別割引やサービスを受けることができます。 | 2万5千円 |
| 法人正会員 | <ul style="list-style-type: none"> この法人の目的に賛同し賛助する団体。 総会での議決権を持ちます。ただし、議決権は法人単位とするため、複数の部門が入会している法人の場合の議決権は1個です。 1回の例会に1法人・1口あたり2名が無料で参加できます。 当協会のホームページに企業ロゴを掲載します。 メルマガでの自社イベント紹介等、法人正会員向けサービスを受けることができます。 例会ビデオを無料でご提供します。 その他、正会員向けの特別割引やサービスを受けることができます。 | 10万円/1口*1 |
| 準 会 員 | <ul style="list-style-type: none"> この法人の目的に賛同し、セミナーなどの事業に参加する個人。 総会での議決権はありません。 当協会からのご連絡などのために、会員登録(メルマガ登録)をしていただきます。 例会にご参加された方は準会員として会員登録をします。 | 無料*2 |

*1 1口から何口でもお申込可能です

*2 準会員は年会費は無料ですが、有料の事業に参加される場合は、参加の都度料金をお支払いいただきます。



お申込み・お問い合わせ

ビジネスシステムイニシアティブ協会事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋2-18-2 NKKビル6F (有限会社ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所内)

TEL : 03-3432-1174 Eメール : info@bsia.or.jp

www.bsia.or.jp